

## IV-M 線維筋痛症

### 1. 病 態

線維筋痛症（FMS）は、慢性的な背部を中心とする痛み、不眠、疲労感などを主徴とする疾患概念である。欧米では古くから提唱されている疾患群であるが、本邦では10年くらい前までは医療関係者の中でもあまり知られていなかった。そして、近年、認知度が上がってきた<sup>1)</sup>が、未だに疾患概念そのものについても賛否がある。米国リウマチ学会（ACR）の「線維筋痛症診断基準」<sup>2)</sup>（1990年発表）は、①「広範囲の痛み」の既往があり、②定義された18カ所の圧痛点のうち、11カ所以上に圧痛を認めること、となっている。その後、圧痛点に頼った診断基準に対して問題点が指摘され、ACRは2010年に臨床基準としての「予備診断基準」<sup>2)</sup>を作成、2011年にはさらに簡略化した改定基準も発表された。2016年には、2011年の改定診断基準の評価項目はそのまま、診断基準を一部改訂し、①広範囲疼痛指数（WPI）が7以上かつ症候重症度（symptom severity：SS）が5以上、もしくはWPIが4～6かつSSが9以上、②5領域のうち4領域以上の全身痛であること、③少なくとも3カ月以上症状が続いていること、④他の疾患の存在は除外しない、としている。診断には、1990年の「線維筋痛症診断基準」を優先するが、「予備診断基準」の臨床症状および、3つの主要症候である疲労感、起床時不快感、認知症状を重要な症候として判断する。

発症は中年の女性に多い。2005年の「厚生労働省研究班疫学調査」<sup>2)</sup>では、本邦では人口の1.66%（推定200万人以上）の患者が存在すると推計されている。

病因に関しては、セロトニン欠乏やサブスタンスPの髄液中の増加などの神経ペプチド異常説、視床や尾状核の血流低下説、ノンレム睡眠の障害説などがあるが、現時点では不明である。それらの障害の他、ストレスなどの心理社会的要因、外傷や手術などの外的要因が発症の誘因になることがあり、複雑な因子が関与している可能性も高い。

### 2. 症 状

臨床症状<sup>2)</sup>としては、全身の痛みは必須であり、他には、90%以上の患者に疲労感がみられる。また、睡眠障害や抑うつ症状、朝のこわばりなどは高率で見られる。しびれ・知覚異常感や過敏性腸症候群、微熱、頭痛、目の乾き、口渇感、レイノー現象、不安焦燥感、頻尿、月経困難、耳鳴り、むずむず脚症候群などの多彩な症状を合併することがある。

### 3. 神経ブロックによる治療法

神経ブロックとしては、星状神経節ブロック、圧痛点へのトリガーポイントブロック、持続硬膜外ブロックなどの報告がある<sup>2)</sup>。痛みが広範囲であるため、神経ブロックだけでは対処できないことも多く、薬物療法や運動療法、認知行動療法などとの併用が必要となる。

### 4. その他の治療法

#### 1) 薬物療法

「線維筋痛症診療ガイドライン2017」<sup>2)</sup>では、プレガバリン、デュロキセチン、ガバペンチン、 Amitriptyline、ミルナシプラン、トラマドール、ワクシニアウイルス接

線維筋痛症  
FMS：fibromyalgia syndrome

米国リウマチ学会  
ACR：American College of Rheumatology

広範囲疼痛指数  
WPI：wide-spread pain index

種家兔炎症皮膚抽出物質などの薬物の使用が推奨されている。

## 2) リハビリテーション

運動療法は、線維筋痛症の重症度（FIQ）、痛み、圧痛点数、疲労が改善したとして、推奨されている<sup>2)</sup>。

## 3) 心理的アプローチ

認知行動療法（CBT）は、痛み、抑うつ症状、障害の軽減において、わずかながら有意であり、推奨されている<sup>2)</sup>。

## 4) 鍼治療

エビデンスレベルは高くはないが、有効とする報告もあり、推奨されている<sup>2)</sup>。

この疾患に対しては最新の診療ガイドラインを参考されたい。

### 参考文献

- 1) 松本美富士：本邦線維筋痛症の疾患認知度の経年的変化および診療ガイドライン作成に関わる研究。（厚生労働省線維筋痛症の発主要因の解明及び治療システムの確立と評価に関する研究，平成22年度研究報告書）．2010；27-29
- 2) 線維筋痛症診療ガイドライン2017．（日本線維筋痛症学会・日本医療研究開発機構線維筋痛症研究班・編）．東京，日本医事新報社，2017
- 3) 松本美富士，他：線維筋痛症の臨床疫学像（全国疫学調査の結果から）．臨床リウマチ 2006；18：87-92

線維筋痛症の重症度  
FIQ：fibromyalgia impact  
questionnaire

認知行動療法  
CBT：cognitive behavioral  
therapy